

映像と表現

本物の道具を使う経験から道具の仕組みや原理に興味関心を持ち、新たな表現方法を知る。

カメラの仕組みを知る

フォトグラファーの方から、カメラの模型を使ってカメラの仕組みの説明をしていただきました。

子どもたちはカメラの光が入る仕組みや「レンズ」「ファインダー」「シャッター」「ピント」など、パーツの名前や専門用語について教えてもらいました。



ストロボの場所の実験



フォトグラファーの方とストロボの位置を動かして、被写体がどのように映るかを色々と試しました。

子どもたちは、「近すぎると（写真が）白くなっちゃう」「遠いとダメだね」とストロボの位置や光の強さによって被写体の映り方が変わることなど、気が付いたことを話していました。

カメラの使い方を知り 家族の写真を撮る



実際にカメラに触ってみると、子どもたちはシャッターを押す感覚や「カシャカシャ」というシャッターを切る音が心地よいようで、何枚も撮って「面白かった」と話していました。家族のポーズなどを決める時に「どんなポーズにする？」と友だち同士でアイデアを出し合ったり、撮る順番を子どもたちで話し合っていて決めていました。



写真を選んで印刷

数枚撮った中から印刷する写真を子どもたちが選び、プリンターから写真が出てくることに満足感を感じている様子でした。

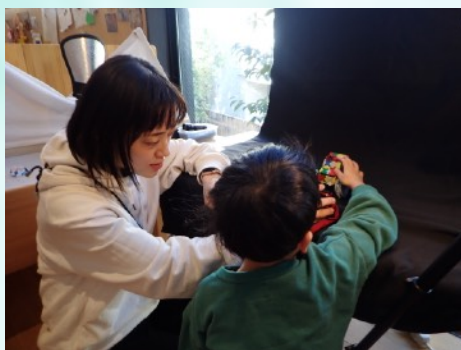


子どもたちの作品の展示

園の玄関に子どもたちが撮った写真を展示しました。



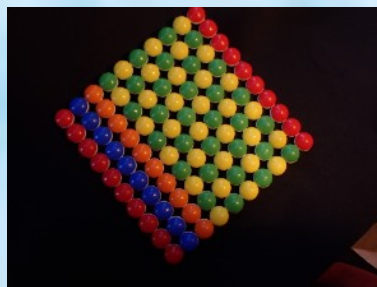
カメラについて教えてもらいました



保育の中で、フォトグラファーの方にカメラや写真について教えていただきました。

普段被写体になることの多い子どもたちだからこそ、自分も写真を撮りたいという思いがあるようです。それぞれお気に入りの作品を持ち寄って、作品のどこを撮るか、どの角度から撮るかを考えていました。

子どもたちの撮影した作品



写真を撮った後は、壊れたカメラを使ってカメラの仕組みを調べてみました。「ここを押すと写真が撮れるんだよね」「あれ、ここ開くよ」と、写真を撮る楽しさや、カメラの仕組みへの興味が広がる機会になりました。

振り返り

- ・保育者が記録を取る際にカメラを使っている姿を見たり、家庭ではカメラやスマートフォンのカメラ機能に触ったりしていることから、子どもたちにとってカメラや写真は身近で、親しみを持っていたが、今回プロが使う本物の道具に触れ、カメラや写真についての興味がより深まる機会になったように思う。
- ・初めてカメラに触ることに緊張している子どももいたが、本番の撮影の前に、事前にカメラの使い方を練習したことで、安心して参加することができたのではないかと感じた。
- ・被写体として参加した保護者が、カメラを使って写真を撮る子どもの姿を見て、「大きくなったね」などと言葉を掛けている姿があり、家族で参加することで子どもの成長を感じる機会にもなったように思う。
- ・その後も、専門家の保護者が園に来園され、改めてカメラの使い方や綺麗な撮影の仕方を教えていただく機会があった。普段、被写体になることの多い子どもたちであるが、子どもたちもこのような経験を通して、カメラを使って自分で撮影してみたいという思いが芽生え、お気に入りの作品や玩具を被写体にして、どの角度から撮影したら綺麗な写真になるかを考えたり、壊れたカメラを使って、カメラの部品ごとの役割を確認したり調べたりすることができた。写真を撮影する楽しさや面白さを知り、カメラの仕組みへの興味が広がる良い機会となったと感じた。